

第58回京都市廃棄物減量等推進審議会

摘録

【日時】平成28年3月24日（木） 午後4時～午後6時

【場所】京都ガーデンパレス 2階 鞍馬

【出席委員】浅利委員，伊藤委員，岩谷委員，川本委員，郡嶋委員，才寺委員，斎藤委員，
酒井委員，高田委員，中田委員，藤田委員，森田委員，山川委員，山崎委員

【欠席委員】宇津委員，崎田委員，新川委員，富永委員，妙泉委員

I 開会

（会長互選，会長職務代理者指名）

平成27年9月に委員改選を行ったため，会長を互選により選出。郡嶋委員を会長に選任。また，郡嶋会長から酒井委員を会長職務代理に指名。

（郡嶋会長あいさつ）

この審議会の中でやっていかなければならないことは，計画に掲げるごみ半減の目標について，それを達成できる方向へ近づけるということである。ここでは，その取組の進捗状況を見ながら，またメリハリをつけて見直しを行いながら，皆様の御意見を反映しつつ，よりよく進行状況を管理したいと思うので，皆様方の御協力をよろしくお願いする。

II 議事

1 部会における検討状況

2 市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言）（案）

（事務局）

資料1（部会における検討状況）及び資料2（市民・事業者の行動場面別ごみ減量メニューの策定に向けて（提言）（案））に基づき説明

（酒井委員）

基本的な考え方として留意しておかなければならない点について，補足をさせていただく。

今回，できるだけ具体的で，かつ中身が分かりやすいようにという点については，部会での審議やとりまとめを行う中で非常に意識をさせていただいた。2Rについては，十分に具体的なメニューが認知されていないという認識の中で，今回は代表的な対象として，食品ロス，レジ袋，乾電池といった具体的な品目を掲げてお示しをさせていただいている。それらの取組については，先見性があり，かつ議論に通ずるかというところを意識しながら，検討をさせていただいた。加えて，それらの取組による効果が今後確認できるのかという，効果算定の点についても非常に意識をしている。つまり，環境負荷やエネルギー等にどの程度の効果があるのか，あるいはコスト面でもどのような効果があるのかという

ころである。今回、個別のメニューに対する具体的な効果については、現在事務局と検討をしているところであり、具体的な数字をお示しできるところはほとんどないが、少なくとも、今後、効果の算定ができるであろうという見通しがたったものを挙げさせていたでいる。補足については以上である。

(中田委員)

高齢者入所施設の職員の話を見ると、紙おむつや食べ残しの削減については、非常に努力をしているが、やはり入居者の体調のこともあり、なかなか厳しいということをおられた。広い土地を有している施設では、生ごみから作ったたい肥で野菜をつくり、それを食材として、食事を提供しているところもあり、入所者に喜ばれているという話も聞いたことがあるので、このような取組を進めることも重要であると思う。

環境教育について、最近では高齢者と児童の世代間交流のイベントというものがあり、これは高齢者の方にも喜ばれ、また児童も楽しんでいるようである。イベントでは、高齢者が持っているものづくりに関する知恵を児童に伝える環境教育も行われており、子どもたちにももの大切さを伝える効果があると考えられるので、こうした取組も必要なのではないかと思う。

(伊藤委員)

食べ残しについては、食品衛生上、廃棄するようにと保健福祉局では指導をされていると思うが、一方でここではお持帰りという話が出ている。そのような点については、今までどのような調整をされているのか。

(事務局)

持帰りについて、腐りやすいものは難しいが、日持ちがするものであれば持ち帰りを可能とするホテル等も出てきている。このような取組は他都市でもやられており、京都市においても、十分に事業者の方や市民の方に説明をした上で、できることから順に取組を進めていきたいと思う。

(伊藤委員)

保健福祉局では、食品衛生上、持帰りはダメであるということを指導されているが、一方で持帰りを推奨するような取組があると、どちらの言うことを聞いたらよいのかという気がする。その辺は、庁内で十分に整理をしていただかなければ、実際に現場では戸惑う場面が出てきてしまうのではないかと思う。

また、過剰包装については、環境政策局と文化市民局とで取組を進めているのか。

(事務局)

過剰包装については、消費生活条例に基づき、文化市民局の消費生活総合センターで指導をしている。指導件数は減り続けており、現在は年間に数件程度と聞いている。消費生活条例は、標準よりも過剰な包装の商品を指導するという考え方であるが、今回は、標準よりも包装が少ない工夫をしている商品を推奨するという、逆の考え方になるので、文化

市民局とも情報交換や相談をしながら、環境政策局が中心となって検討を進めていきたいと考えている。

(伊藤委員)

相反するような指導をする部署があると、我々も戸惑ってしまうので、この辺もきちんと行政の中で整理をしていただきたいと思います。

リチウム電池の回収については、製造側で色分けをするようなことをしていただけると非常にありがたい。特に、高齢者は電池を見ても種類が分からないので、例えばどうしても回収すべき電池については、色を赤にするなどしてはどうかと思う。種類によって色分けをすることにより、もう少し市民の方の協力は得られるようになると思う。

生ごみについて、これまで京都市は堆肥化装置を斡旋してこられたと思うが、実際に使用して生ごみを堆肥にしても、それを戻すところがないということがあるようである。戻すところがなければ、せっかく機械を購入しても、ほとんど使われなくなってしまふ。生ごみの堆肥化を推奨するのであれば、それを戻す場所もあわせて作っていただくと、ごみ減量は促進されるのではないかと思う。

(酒井委員)

先ほど伊藤委員からいただいた御指摘について、部会で議論をさせていただいた点を補足させていただく。

持帰りについて、食品衛生との関係は非常に重要なポイントであり、資料2の5ページの具体的な取組概要では、現段階では非常に抑制的な表現で記載をさせていただいている。先ほど御指摘のあった、保健福祉局との調整の必要性については、事務局を含めて認識をさせていただいているが、調整はこれからという状況なので、この点に関しては御理解を賜れば幸いである。

最後に御指摘のあった堆肥化装置について、堆肥を使うところがないという点に関しては、都市部の現場では当然起こり得ることではあると思うが、それがゆえに、今回は食品ロスを減らすというリデュースに特に焦点をあてて、議論をさせていただいたことである。

電池に関しては、全く御指摘のとおりであると思うので、今後、全国規模で展開できる話なのかということも含めながら、議論をさせていただきたいと思う。

いずれも非常に貴重な御指摘をいただいたので、今後の部会の議論では大切に扱わせていただきたいと思います。

(郡嶋会長)

外国では、これまでドギーバッグと言っていたものを、今ではマイボックスと言うようになっており、それが当たり前になっている。外国の場合は、ほとんどが過熱をする食べ物であり、生ものがないので、このような取組が上手くできている。そのような視点から言うと、生ものは遠慮していただくという中で、段階的に乾物などの大丈夫なものから進めていくということが重要であると思う。その辺を上手く区別しながら、可能なところからやっていただければ、取組は進むのではないかと思う。

(中田委員)

現在、市内の複数の小学校や中学校で落ち葉を堆肥化する取組を進めているが、そこでできた堆肥は、花や野菜づくりに利用されている。生ごみの場合は、ハエと水分の問題があり、堆肥化が難しいが、落ち葉と土と米ぬかを混ぜることにより、上手くいったような成功例もある。大量の生ごみを扱う場合は特に難しいと思うので、専門家に検証していただき、堆肥化とその利用方法について考えていただければと思う。

(郡嶋会長)

京都の取組の進め方はひとつの特徴を持っている。ここでは「共創」と記載しているが、言い換えると“coproduction”，いわゆる「協働」という形で、需要側と供給側のマッチングをしながら、取組を進めていくという方向である。

そのような仕組が動いているということを前提にすれば、ここに書かれていることは非常に有効な取組になる。したがって、そのような組織や仕組をつくることが重要であり、そしてそのコミュニティを形成することが行政の役割であると思う。

そういう面から言うと、この背景にある従来の京都のやり方を踏まえた上で、それをさらに具体的な形でまとめるという方向性が見えてきているので、ぜひこのようなことが具体的に市民に浸透するように進めていただきたいと思う。

(森田委員)

京都市ごみ減量推進会議の事業の中で、生ごみを消す取組が行われていたが、結構成果が出ていたようである。都市部で暮らす方は、生ごみを堆肥化してもその行き場に困るということもあるようなので、そのような取組があるということも認識していただき、それをどう広げるのかということも、今後考えていただけたらと思う。

ドギーバッグであるが、日本では昔から「折り」で持帰るという文化があったと思う。例えば、披露宴で残った食べ物を折りに詰めて持帰るということが昔はあったので、「折詰め」にして持帰るという文化にもヒントがあるのではないかなと思う。

8ページの観光であるが、観光面でのごみの減量は、外国の人に対してどのようなコミュニケーションをとるのかということが、大きな課題ではないかなと思う。私は、来年度に土産物の包装についてのモデル事業を予定しているが、土産物についていろいろと調べたところ、日本の商品の「プラ」や「紙」のマークは文字で記載されており、外国の方では分からないと思った。そのため、文字情報だけではなく、それをピクトグラムのように、誰が見ても分かるようなマークにする必要があるのではないかなと思っている。

修学旅行についてであるが、これはもっと前向きに捉えて、修学旅行生に環境学習としての講座ができるようなプログラムを形成することがとても重要になってくるのではないかなと思った。

最後に、9ページの扇子のコラムであるが、「風呂敷」もリユースの象徴となるものなので、風呂敷も加えていただけるとありがたい。

(才寺委員)

12ページの観光客への発信について、外国の方への取組が書いてあるが、例えば、中

国の方の場合は、食べ残すことが作った方への礼儀であるということもあるようなので、日本の風習はそうでないということについても伝える必要があるのではないかと思います。

5ページの製造の取組では、小容量商品等の製造・販売促進とあるが、最近では土産物でも小容量のものが売り出されており、消費者の方が買われる際は、同じ量であれば大きい方を買ってしまうという傾向もあり、また詰め替え商品でも、詰め替えとそうでないものであまり値段が変わらないということもあるので、そのようなところの消費者への喚起も必要ではないかと思う。

本日、席上配布していただいている、「納品期限見直しパイロットプロジェクトの実施」は、大変有効なごみ減量の手段であると思うので、もしよろしければ、こちらの方を少し御説明いただければありがたい。

(斎藤委員)

私の方から提供させていただいた資料なので、少し御説明させていただく。

<席上配布資料について説明>

取組の結果について、取り扱う商品群や実施する店舗数が限られていたため、効果はほとんど把握することができなかった。まだ売れるものを廃棄するという事は、利益が減るということになってしまうので、このプロジェクトは我々のような小売業者からしても非常にありがたいと思ったが、効果が見えなかったのが現実である。

今回、このようなプロジェクトは、京都市だからこそ出来るのではないかと思います、先日の部会で提案をさせていただいたところである。これは全国のメーカーやチェーン店が一斉にやらないと難しい部分はあると思うので、行政側も難しい部分はあるのではないかと感じておられるかと思う。しかし、個人的な提案として、京都市はレジ袋の有料化ができたので、同じように京都市内のチェーン店に対して、メーカーからの納品期限は別として、小売の販売期限の部分だけでも、3分の1ルールをやめるような提案をしていくことは可能ではないかと思っています。その部分から先に進めていただいたら、我々としては非常にありがたいと思う。そのために、今日の資料を出させていただいた。

(山崎委員)

私が参加する会合では、食事会の時は食べ切りをお願いするなど、3つのキリを盛んにお願いしている。以前、生ごみのリサイクル施設へ見学に行った際、キャベツやいちごがそのままの状態コンベアに運ばれ、潰されていく状況を見たことがある。スーパーやホテルから出た賞味期限切れのパンなどが、ここで処理されているということをお聞きして、もったいないと言いながら帰ってきたことを覚えている。

1つお尋ねしたいが、よく家のポストに家電等の不用品の無料回収のチラシが入っているが、これの行き先はどうなっているのか。以前に不用品の無料回収は利用しない方がよいと聞いたことがあるが、実際どうなのか教えていただきたい。

(事務局)

先ほど山崎委員から、生ごみのリサイクル施設のお話をいただいたが、今回はそもそも食品ロスを発生しないようにということで、2Rの取組の具体的なメニューを部会で御議論いただいたところである。生ごみの堆肥化もリサイクルとして有効な手段であるが、まずは2Rということで、検討を進めているところである。

斎藤委員からは、納品期限見直しのパイロットプロジェクトについて御説明いただいたが、実施された経過や結果についても、具体的に色々とお伺いしながら、京都市の方でも取組の可能性について研究していきたいと思う。

不用品の回収の件について、本日の資料にも小型家電の有効利用について記載させていただいているが、山崎委員から御質問いただいた無料の回収業者については、不適正な処理をしているケースも多く、また収集運搬の許可上の問題もあるため、そのような業者は利用しないよう、小型家電の回収のお知らせの中でもお願いをさせていただいているところである。

(郡嶋会長)

アメリカのスターバックスでは、期限間近の食品をフードバンクに回しているようである。日本もまだフードバンクが少ないので、この辺をどう考えていくのかという部分はあるかと思う。

外国人の習慣の違いについてであるが、多くのアジア系の国では、むしろレジ袋は有料化になっている。そのような国の方からすると、レジ袋が無料でもらえる日本のコンビニエンスストアは、おもてなしをしているような形となっており、これは京都のおもてなしの文化とは少し違う形になってしまっているのではないかと思う。この点についても、どう京都市から発信していくのが重要であると思う。

今回の提言は、課題も色々あるが、全体としては上手くできているので、本日いただいた御意見を踏まえながらとりまとめた上で、ホームページの方で公表させていただくということで御了解いただきたい。

3 ごみ減量メニューの実践による効果の検討、検証、見える化及び継続課題

(事務局)

資料3（ごみ減量メニューの実践による効果の検討、検証、見える化及び継続課題）に基づき説明

(浅利委員)

資料3の2ページの修学旅行生へのアプローチについて、先ほど森田委員からも前向きに捉えた方がいいのではないかと御意見もあったが、改めてそうであると思った。修学旅行生のマイボトルの持参については、お茶を入れる手間の問題や、それによる宿泊施設の自動販売機の売り上げの関係もあるかと思うが、サンフランシスコでは2014年からペットボトル入りの飲料の販売を禁止するという取組をされていると思うので、その情

報も参考になるのではないかと思います。京都も上下水道局が水道水のアピールをされているので、蛇口をひねって水を入れて飲んでいただくようなことをPRしていくという方向性もあるのではないかと思います。

4 平成27年度のごみ量

(事務局)

資料4(平成27年度のごみ量)に基づき説明

(森田委員)

ごみが減ったのはとても良いことであるが、人口や世帯数との関係はどのようなようであるか。

(事務局)

人口は微減であるが、単身世帯や核家族化が進んでいるため、世帯数は年々増加している。決して人口や世帯数が減少したからごみ量が減ったというわけではなく、分別や2Rの取組に御理解、御協力をいただいていることにより、ごみが減っていると認識をしている。

5 今後のスケジュール(案)

(事務局)

資料5(今後のスケジュール(案))に基づき説明

Ⅲ 閉会

(事務局)

本日御審議いただいた「提言(案)」については、本日の御意見を踏まえ、会長と調整の上、「提言」という形でとりまとめ、事前に委員の皆様にお送りさせていただいた上で、ホームページで公表させていただく。